



日本 YWCA 被災者支援プロジェクト
東日本大震災被災者支援活動の報告

～女性と子どもの安全と安心のために～

日本 YWCA は平和・人権・健康・持続可能な環境の諸課題に取り組む女性による国際 NGO として、女性と子どもたちに寄り添った、安全と安心が守られる被災者支援を中長期的な視野に立って取り組んでいます。

2012 年 3 月 31 日
日本 YWCA

2011年3月11日起きた東北地方太平洋地震・津波、そして東京電力福島第一原発事故。未曾有の大災害に今もって多くの方々が不安な生活を余儀なくされています。被災された方々に対し、心よりお見舞い申し上げます。

日本YWCAは翌3月12日より、初動調査、被災者支援のための募金、緊急支援活動を開始しました。女性や子どもたちのニーズに応え、国内外のYWCAおよび他団体と連携して敏速に動くために「女性と子どもの安全と安心のために」をキーワードに「日本YWCA被災者支援プロジェクト」を設置し、被災者、ことに女性と子どもへの中長期支援活動を継続しています。

〔期間〕 緊急支援活動 2011年3月12日～2011年3月31日
 中長期支援活動 第1期 2011年4月1日～2012年3月31日
 第2期 2012年4月1日～2013年3月31日
 その後についても、支援状況をみながら継続を検討

この1年間の日本YWCA被災者支援活動について報告をいたします。

緊急支援活動 2011年3月12日～2012年3月31日

3月12日・13日 情報収集
 14日～4月下旬 物資支援・他言語での情報配信開始
 15日～ 募金開始
 女性と子どもたちへの住宅提供の体制作りと手配


物資支援

カウンターパートからの支援物資のニーズに応じて、女性と乳児の必需品を中心に全国の地域YWCAと協力して被災された方々へ届けました。



深層水は赤ちゃんのミルの水に使えます。保育園・幼稚園で大変喜ばれました。



届け先	支援物資	カウンターパート
宮城県七ヶ浜町等	粉ミルク・ 哺乳瓶乳瓶の乳首 哺乳瓶の消毒液 離乳食 おしり拭きシート 生理用品	日本キリスト教団東北地区 被災者支援センター 
岩手県釜石市 宮城県名取市	チョコレート カレールー	岩手県釜石市災害救援本部 宮城県名取市災害救援本部
岩手・宮城・福島・ 茨城・栃木・千葉 各県の保育園・ 幼稚園（60園）	海洋深層水	キリスト教保育連盟
福島県新地町	乾麺	日本聖公会東京地区支援対策本部 NPO 法人日本エコリス [®] センター RQ 市民 災害救援センター東北本部

他言語での情報発信

英語・タガログ語・ベトナム語で、東京電力福島第一原発事故および放射能に関する情報を配信しました。

中長期支援活動－第 1 期－ 2011 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日

3 月下旬～4 月	被災地での聴き取り調査を実施 被災者支援を行っている NGO、NPO 等の女性たち、教育委員会、社会福祉協議会、子育てサロン等とのネットワークづくり
4 月～8 月	カウンターパートの仙台キリスト教被災者支援ネットワークの事務局（東北ヘルプ）へボランティアを派遣
4 月 18 日	日本 YWCA 被災者支援プロジェクト発足 「避難者受入れのための住宅支援」「こころのケア活動」「福島県相馬郡新地町での『災害ボランティアセンター』活動支援」を開始
8 月～ 夏・冬・春休み	新地町の小中学校への支援活動開始 リフレッシュプログラム実施

※物資支援は 4 月をもって終了

※他言語での情報配信は終了。海外に向けた英語での情報は現在も発信中

避難者受入れのための住宅支援

■セカンドハウスプログラム

震災直後、全国の地域 YWCA を通して家主の方々より住宅を無償もしくは安価での提供を受け、被災地から安全な場所への一時避難を希望する方々へ、日本 YWCA が移動交通費・家賃・水道光熱費等の必要経費を負担して、住宅を提供しました。

〈対象者〉岩手県・宮城県・福島県の被災地の

- ・避難地を必要とする乳幼児を抱えた方、高齢者の方、障がいを持つ方、外国籍の方
- ・夏休みなど長期休暇中の子どもたち（ホームステイ）
- ・一時休養が必要な被災地で活動する奉仕者・介護者の方
- ・その他緊急を要する方

福島県の深刻な放射能汚染の状況が明らかになり、5 月より対象地域を福島県に絞りました。また利用者が神戸への 1 家族であったので、一家での長期避難の困難な状況やその他の諸事情を鑑みて、夏・冬・春の長期休み期間の住宅利用に変更しました。

〈対象者〉福島県在住の 19 歳以下の子どもがいる家族、40 歳以下の単身女性

2011 年 4 月～2012 年 3 月までの利用状況(4 日間の短期間利用から約 1 ヶ月間の利用がありました。)

夏	札幌・東京・新潟・横浜・名古屋・神戸・呉・沖縄の各 YWCA	12 家族 36 名
冬	東京・横浜・名古屋・京都・大阪・神戸・松山の各 YWCA	9 グループ 36 名
春	東京・横浜・名古屋・京都・神戸・松山・福岡・熊本・の各 YWCA	12 家族 36 名
通年週末利用	仙台 YWCA	1 家族 5 名

～利用者の声より～

- ・何の心配もなく生活できました。
- ・心を休めることができました。
- ・地元では我慢させていた外遊びも思う存分させてあげられました。

■リフレッシュプログラム

被災による大きなストレスを抱えている子どもたちや母親に、ほんの束の間ではありますが、キャンプや観光の楽しい時間の中でリフレッシュしてもらうプログラムを全国の地域 YWCA が夏・冬・春休みに実施しました。

ボランティア、実施地の地元のみなさんの大きな協力を得ました。

※夏休みリフレッシュプログラム	期間	参加者
札幌 YWCA/北の大地ですごす夏休み ～みどりの風に吹かれてみよう～	8月2日～11日	親子9組20名
福島 YWCA/教育部書道教室夏季プログラム	7月30日	子ども21名
東京 YWCA/新地っ子の夏休み	8月19日～23日	子ども29名
京都 YWCA/ひと夏のマイセカンドハウスプログラム in 京都 ～京都での夏の思い出づくり～	7月29日～ 8月12日	子ども14名 おとな2名
大阪 YWCA/夏のキャンプ 福島送迎プログラム	8月5日～10日	子ども12名 おとな5名
神戸 YWCA/神戸 YWCA・神戸 YMCA 合同企画 夏のわいわいキャンプ	8月10日～15日	子ども11名 おとな3名
福岡 YWCA/ほっとひといき ママと行く九州のんびりキャンプ	8月22日～24日	子ども14名 おとな8名
日本 YWCA/「ひろしまを考える旅」へ被災地の高校生・大学生 を招待	8月8日～10日	高校生2名 大学生2名
日本 YWCA/「日韓ユースカンファレンス」へ被災地の高校生・ 大学生を招待	8月30日～ 9月2日	大学生3名

🏕️ キャンプでは

バーベキュー、水遊び、自然散策、プール、動物とのふれあい、体験プログラム・・・

わいわいガヤガヤ 外で思いっきり遊びました。 🐾



パワー全開！いっぱい楽しんでくれた子どもたちの感想です。

「キャンプ、川あそび、カンガルーに餌をあげたり、やさいスタンプでバックをつくってたのしかった。」

「散歩で拾った紀の実や葉っぱや小石で。等身大の自分をつくったヨ！」

「また来たいな・・・」

「お父さんと一緒に暮らしたい。」「自分の県に帰りたい。」

うちとけてきた子どもたちからは、被災した時のことやこころの声もはなしてくれました。



❄️ 冬休みリフレッシュプログラム	期間	参加者
札幌・函館 YWCA 共催/北の大地ですごす冬休み ～青い空、白い雪、ひかりの街 ようこそ函館へ～	1月5日～8日	子ども18名 おとな13名
広島 YWCA/ヒロシマ・フクシマアート交流	7月30日	高校生17名 引率教員2名 その他3名
福島・日本 YWCA 共催/クリスマスミニコンサート	12月8日	30名

❄️ 北の大地では

お餅をついて、丸めて、思いっきり食べて・・・

かるたに、ポーリング大会、函館の夜景を見て・・・

函館は一面の銀世界。子どもたちは雪に大喜び！そり遊びに夢中になりました。



子どもたち、お母さんの感想です。

「福島ではほとんど雪が降らないので良い思い出になりました。」

「外で思いっきり遊べ、そりが楽しかったです。」

「あつという間の3泊4日でした。家族でまたきたいです。」

「このような笑顔を久しぶりに見たような気がします。」

☞ヒロシマ・フクシマアート交流では

平和公園の碑めぐり、広島の高中生との交流、そして観光、お好み焼き・・・
デザインを専攻する福島市内の高校生が広島で放射能を心配しないで過ごしながら被災地福島
をアートで表現して、全国、世界へアピールする方法を考えました。

平和への希求をアートで表現する方法をまなび、表現しました。

高校生の感想です。

「核兵器により、すべてを破壊された広島は、戦後の復興によって、以前より整備された都市へ変わったそうです。今は悲しみの記憶は、原爆ドームでしか、知ることはできません。美しい広島の町を歩いて、今も続く「フクシマ」の原発事故の悲しみも、何十年か後には癒されるのだろうかと感じました。」

「広島の人が福島のことを思ってくれていて本当にうれしかった。」

「福島の震災での原発事故と過去の広島におきた惨劇をてらし合わせ、胸がしめつけられるような思いがありました。「被ばく」という共通点で学んだ原爆のこと、規模も威力も違って、けれどそんな現実の中で、何十年にもわたり復興された歴史をみて、今福島で私たちにいったい何ができるだろう、と現実と向き合って考えようと思うことができました。」

「砂も葉っぱも海水も触っても問題がないという事で、久しぶりに自然に触れられてすごくいやされました。」

「私たちが今いる福島が、放射線がどれだけ危険なのか思い知らされました。今も私たちには知らされていない事が沢山あると思うと、不安でなりません。・・・中略・・・雨を気にしなくても大丈夫、外でのびのびと出られている。これ以上うれしいことはありませんでした。」

「平和記念資料館には、災害と社会を考えるヒントが垣間見えました。」

「今の福島環境は、決して恵まれたものではありませんが、皆さんからいただいたたくさんの活力や笑顔は、その環境をくつがえすような、とても大きな力になったと私は思います。・・・中略・・・こんな環境であっても、私は福島が好きです。広島から帰ってきて、初めてそんな風を感じました。広島と福島がつながれたこと、今回の交流でさまざまな出会いをいただいたこと、人の力ってすごい。福島が好きだ。」

☞春休みリフレッシュプログラム	期間	参加者
東京 YWCA/避難している母子と福島の父親のための 家族キャンプ	3月24日～26日 3月30日～ 4月1日	7家族 子ども11名 おとな11名
静岡 YWCA/親子わくわくピクニック 福島県飯館村から静岡へ避難・保養プロジェクト	3月23日～25日	子ども17名 おとな11名
京都 YWCA/春休み！京都にあそびにおいでよ♪ ～春休みリフレッシュプログラム～	3月26日～ 4月1日	子ども15名 おとな1名
大阪 YWCA/大阪わいわいスティプログラム	3月24日～31日	子ども14名
神戸 YWCA/ひょうご ちょっとのぞいてみようツアー	3月24日～29日	子ども12名 おとな8名

☞わくわくピクニックでは

富士山を眺める広大な日本平で、親子でかけっこしたり、飛んだり跳ねたり・・・
タンポポで王冠作ったり、ダンゴ虫と遊んだり・・・ イチゴをたくさん食べたり・・・

よく笑い、よく食べ、いっぱい いっぱい楽しみました。



子どもたち、お父さん、お母さんの感想です。

「イチゴがちょ～おいしかったあ、何か虫もいたよ」
「土を掘って作った落とし穴に、お兄さんが落ちて楽しかった」
「いい息抜きになりました。」

「人はやはり支えあっているんだなと強く思いました。」

「いっぱい笑わせてもらい、子どもものびのびと精いっぱい羽根を伸ばせました。」

「思いっきり外遊びができて、子どもたちのうれしい顔が見られたのでよかったです。」

「飯館でこれからやるはずだった、年齢に合った足腰を鍛えることが「遊木の森」で出来てとてもよかったです。」

「先の見えない日々が続きますが、また、あすから頑張っていこうと思います。」



👉ひょうご ちょっとのぞいてみようツアーでは

子どもとおとなが分かれて行動する時間を設けました。

子どもたちは、外遊びにおおはしゃぎ！

おとなは、兵庫県内の様々な団体を実際に訪問したり、既に避難されてきているご家族との交流の時も持ち、被災者への住宅、仕事、医療、教育などの支援に関する情報収集を行いました。子どもの前では話せない胸のうちをおとなだけでゆっくり語り合いました。

おとなたちの感想です。

「こどもたちと離れて外出することがあまりないので、久しぶりに大人だけの時間を楽しむことができうれしかった。」

「県外に協力してくれる人たちがたくさんいることがわかった。」

「福島から避難された方の話に刺激を受け、自分も避難すべきか！？とかきたてられた心を落ち着かせてくれる話だった。(医療相談を通して)」

「子どもと一緒にいたら、あんな風に涙は見せられなかったし、自由に話せなかった。」

「こどもが楽しく遊ぶキャンなどはいくらでもあるが、大人たちがこどもから離れて思い切り語り合えるプログラムは少ないのではないか。」

「土で遊んでもいいんだね。」

こころのケア

■こころのケア活動

- こころのケア 2本の柱
- ①被災者へのこころのケア
 - ②支援者へのこころのケア

仙台市・福島市を中心に、被災された女性、子ども、障がいを持つ方、高齢の方、ボランティアを対象にこころの癒し・相談・情報提供セミナー等を開催しました。

10月には仙台YWCA 震災復興支援室「こころの杜」を開設。

今回の地震、津波、原発事故による被災地は広範囲に及んでいます。刻々と変化する状況を踏まえながら、ゆっくり丁寧に思いを聴きながら寄り添った活動を大切にしています。

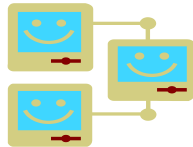
活動例

被災者へのこころのケア	ボランティアへのこころのケア
<ul style="list-style-type: none">▶福島YWCA セミナー「原発事故と健康被害」(約130名参加)▶福島YWCA こころのケアYサロンー支えあう傾聴(月1回開催・毎回約15~20名参加)▶仙台YWCA 震災復興支援室「こころの杜」傾聴サロン(月1回開催)▶仙台YWCA 震災復興支援室「こころの杜」バスツアー(約30~40人参加)▶仙台YWCA 震災復興支援室「こころの杜」バスツアー参加者フォローアップ▶仙台YWCA セミナー「癒し講座」▶名古屋YWCA「シンチ・ハートプロジェクト(★1)」	<ul style="list-style-type: none">▶仙台YWCA 震災復興支援室「こころの杜」ボランティアの心とからだのケア養成講座(月1回提供)▶仙台YWCA 震災復興支援室「こころの杜」/ボランティアへの食事提供(月1回提供)▶福島・大阪・神戸・広島・呉YWCA 合同セミナー「福島の放射能被害」約60名参加▶湘南YWCA セミナー「子どもたちへ与えた災害の心のケア」▶宮城野区民生委員・児童委員への研修と相談▶利府根町児童館職員研修会「震災後のスタッフと子どものこころのケア」▶堺市社会福祉協議会&ボランティア連絡研修会「堺で被災者をどう見守れるか」▶栃木県被災地派遣の職員研修についての相談

★1「シンチ・ハートプロジェクト」

名古屋 YWCA が行っている、福島県相馬郡新地町子どもたちへのこころのケアです。3つの小学校の保健室とテレビ電話でつながり、子どもたちの話をじっくりと聴き、相談にのっています。福島県新地町教育委員会の要請で始まりました。

子どもたちは被災体験のことを誰かに聴いてほしいのですが、同じく被災した親や教師たち周囲の大人たちに対応する余裕がないことを気遣って、震災のトラウマをひとり心に閉まっています。無理に話を聴き出さずに、日常のこと、被災のこと、悩み等、子どもたち自身のペースで話をしてもらっています。難しいケースがあった場合のフォロー等は担任の先生や養護教諭を中心に対応しています。



2011年3月末現在
相談件数 64件 述べ人数 121名

福島県相馬郡新地町での支援

■ 〈4月～8月まで〉「新地町災害ボランティアセンター」活動支援



ボランティアコーディネーターを派遣して、運営業務に協力しました。

8月10日に「新地町災害ボランティアセンター」は組織改編し「しんち町生活支援センター」として再スタートしたため、8月をもって日本YWCAからボランティアコーディネーターの派遣は一旦終了しました。

福島県相馬郡新地町は、太平洋沿岸の人口約84,000人の町です。人口の約18%を占める500世帯（約1,500人）が被災しました。



4月21「災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（★2）」の支援を受け、日社会福祉協議会を中心に協力し、「新地町災害ボランティアセンター」が開設されました。日本YWCAは、4月から8月までにボランティアコーディネーターを述べ40名派遣し、ボランティアセンターでの業務の他、家屋の泥出しや片付けなどの現場の作業にもあたりました。



（★2）災害ボランティア活動支援プロジェクト会議

企業、NPO、社会福祉協議会、共同募金会等により構成されるネットワーク組織で、2005年1月に中央共同募金会に設置された。災害時には多様な機関・組織・関係者などが協働・協力して被災者支援にあたり、被災者の声に耳を傾けながら被災者中心・地元主体の支援となるよう、ネットワークを最大限に生かして支援にあたっている。

■ 〈8月～〉新地町の小・中学校への支援

新地町教育委員会と協働して、新地町の小中学校への支援を開始しました。小学校でのテレビ電話相談（こころのケア活動「シンチ・ハートプロジェクト」）、中学校の補習授業へのボランティア派遣、中学生の東日本大震災体験記発刊に協力しました。

☞ 中学校の補習授業へのボランティア派遣

10月から月2回2名ずつ、ボランティアを派遣。1年生から3年生までの英語、国語等を担当しています。回を重ねるごとに参加者が増え、60名程になっています。

☞ 『新地町立尚英中学校 256の軌跡』 発刊へ協力

尚英中学校で、生徒たちが書いた3.11東日本大震災の作文の記録化の意向を持たれていることを知り、作文データ入力に協力しました。

作文は記憶に新しい2011年6月に書かれたものです。
中学生にとってあの日の記憶を辿ることは大きな心の負担になりますが、個々にケアを受けながら綴られた、ありのままの貴重な作文です。
中学生たちの声をしっかり受けとめて全国へ。そして世界へ伝えたいという願いをもって、英語への翻訳も行うことになりました。
中学生からシニアまで60名以上のボランティアが入力と翻訳にあたりました。



* 作文は、日本YWCAおよび全国の地域YWCAで読むことができます。

会計報告 2011年3月15日から2012年3月31日

震災直後より、国内外の皆さまから支援のために寄付、物資、メッセージをいただきました。
日本YWCAの被災者支援活動は皆さまからのご支援によって継続することができました。感謝し、お礼を申し上げます。



▲ 海外から寄せられた
▽ 支援メッセージ

《寄付等収入》

寄付金等	45,297,449 円	寄付金 31,520,949 円 助成金 13,776,500 円
物 資	オムツ、哺乳瓶、生理用品 その他女性や乳児の必需品・ カレールー・チョコレート・海洋深層水・乾麺	



《支出》 物資支援およびそれを用いた会計報告です。各地域YWCAで実施した支援プログラムは、日本YWCA東日本被災者支援募金・助成金の他に、各地域YWCAが受けた寄付金や助成金も含めて実施しています。

緊急支援	2,698,517 円	物資支援	2,698,517 円
中長期支援	24,405,030 円	セカンドハウスプログラム	2,923,599 円
		リフレッシュプログラム	13,363,200 円
		こころのケア活動	2,499,787 円
		「新地町災害ボランティアセンター」活動支援	2,098,132 円
		新地町の小・中学校への支援	386,981 円
		その他	3,133,331 円
合計	27,103,547 円	サーバイーター購入費や仙台キリスト教被災者支援ネットワークの事務局へのボランティア派遣などの費用です。	

被災された方が安全・安心と感じられるまでには相当の時間を要します。
被災された方々が安全で安心できる状況が一日も早く訪れることを祈りつつ、計り知れない悲しみと痛みの声に耳を傾けて寄り添い、引き続き、各地域YWCAでリフレッシュプログラム（保養プログラム）他、仙台YWCA震災復興支援室「こころの杜」や福島YWCAを拠点に、長期支援活動を継続します。そのためには、まだまだ資金が必要です。
引き続き、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

